

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラム

取組名 社会福祉施設及び関連機関への就職支援のための総合的な取組

平成21年度の取組に対する成果について

専門的な知識・技術の習得	
国試対策特講 月例テスト	2年生には十分な成果をあげることができた。回を重ねるごとに学生たちの意欲が増し、少しでも多くの専門的知識・技術を身につけて卒業し、就職先で活かしたいということから、予定していた回数を10回増やすことになり、卒業時共通試験では全学生が基準以上の成績を収めることができた。月例テストもミスをした問題を繰り返し復習することで知識の定着につながった。
前年度就職先 アンケート	コミュニケーション能力をもう少し向上させる必要があることがわかった。
基礎学力養成講座 基礎学力テスト	出席回数が多い学生については、少しずつではあるが効果が出てきている。引き続き地道に取り組んでいく必要を感じている。
「仁」を体現する人材養成	
ボランティア活動	新型インフルエンザの影響で十分な活動をする事ができず、現場から学ぶこと、その職をよく知り福祉専門職への動機付けとすること、福祉職従事者の心を知ることから建学の精神の理解につなぐことなどの期待していた効果については十分な成果を得ることはできなかった。
振り返りレポート	1年間を振り返り、特に建学の精神の理解・実践という観点から記述させたが、まだまだ不十分であることがわかった。
基礎(総合)演習	年間計画に基づいて実施された。就職に関する指導や施設職員による講話、現場で活躍する先輩たちの講話などを通して福祉専門職に対する理解を促すことができた。また、学長講話では、具体的な例をあげて熱意を持って語っていただけたことでは、具体的な例をあげて熱意を持って語っていただけたことで福祉専門職に対する就職意欲が刺激された。 個人面談は全学生について実施し、学生生活を不安なく過ごせるよう努めた。必要に応じて適宜実施することで、クラスの中に溶け込めなかった学生が徐々に変化していったり、学習態度が改善されたりした。

就職指導	
社会福祉施設訪問	受験予定先を訪問し、採用方針等を伺うとともに学生生活の様子などを伝えること、短大としての方針を説明するなどを 行い、効果があり、全学生が採用となった。
マナー指導	就職試験にすぐに役立つ内容を中心に行った。面接試験などで 効果を発揮した。1年生には次年度自らが就職活動を行うという 良い意識付けとなった。
キャリアサポート センターの移転 教職員の連携	新たな場所に移転し、就職情報システムの導入や関係備品の 整備を行なったことで、学生たちが利用しやすくなり、来所での 相談者や情報検索者が増加した。クラス担当者と連携して就職 指導をすることで就職活動はスムーズに進み、また学生とキャリ アサポートセンター職員とのやり取りもスムーズになり、求人先 とのトラブルは発生しなかった。
昌賢学園就職面接会	新型インフルエンザの影響で「昌賢学園就職説明会」と名称を 変更し、3月実施となった。対象者は1年生となり、次年度の 採用に向けての催しとなったが、59箇所の事業所の参加と 熱心な説明をいただいた。学生たちは意欲的に各ブースに並び、 真剣に質問したりして自らの就職について大いに刺激を受けた ようである。また、事業所からの評価も高く、この時期での説明 会の実施も効果的であることがわかった。